

た。花卉については、毎年面積拡大を図り、今年度は4,174万円の販売額で実績を着実に伸ばしてきております。新規作付者も増え、今後も部会員とともに「白神りんどう」のさらなる特産品化に向けて取り組んでまいります。

一方、これから収穫最盛期を迎える「白神山うど」や「白神アスパラガス」の生育はいずれも株が少し小さいという話ですが、今後、販売の中心となっていく存在と考えております。今年度の目標である青果物販売額20億1,700万円達成に向け、大きな期待を寄せているところです。

第141回種苗交換会は秋田市で開催され、当管内からはネギの農林水産大臣賞・秋田県知事賞をはじめ、キャベツなど28点が入賞するなど、天候に大きく左右される厳しい栽培環境の中にあっても、品質は高い水準にあることが認められました。市場関係者からも白神産農産物への信頼・期待が大きくなり、安定供給に向けた生産拡大がさらに求められております。今後

も安全・安心な農畜産物の生産拡大を図り、消費者に選ばれる商品作りを心がけ、農家所得の向上に繋げて行きたいと考えています。

11月には、第30回秋田県JA大会が秋田市で開かれました。今後ともJAが農家・組合員から必要とされる組織として、役割を發揮していくためには、多様化する地域・農業の実態やJAの経営環境の変化をふまえ、改革の取り組みが必要となります。本県は、人口減少率と高齢化率は全国最高となっており、農業就業人口の減少や農業者の高齢の進展もスピードアップしています。また、長引く超低金利政策に伴う信用事業収益の悪化が見込まれるとともに、農協改革による中央会制度の廃止、会計監査人監査の導入が今年に予定されています。かつて、経験したことのない厳しい経営環境が見込まれています。

そのため、将来的には、既存の枠組みにこだわらない秋田県JAの実現に向け、オール秋田体制による農業と地域の発展を目指し

組織、事業経営の改革に挑み協議を開始していくことが決議されました。合わせて、当JAとJA秋田やまもとで進めております合併につきましても、経営状況や合併後の3カ年計画を協議している状況で、秋田県JAの議論とあわせ協議を続けていく考えです。今後さらに協議を進め、組合員の皆さまにご説明申し上げます。

新たな年のスタートにあたり、31年産以降の水田農業政策をはじめ、農業・JAを取り巻く環境は、先の予測がしがたい不透明な激変の時代と考えております。『農業者の所得増大』・『生産の拡大』・『地域の活性化』を着実に実行し、地域農業の将来を見据えた農業者の営農と地域住民の生活を支える総合事業を展開し、今後とも農業者や地域住民が一体となった協同活動に役職員一同取り組んでまいります。

本年も皆様の変わらぬご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさつと致します。

理事	理事	理事	理事	理事	代表理事	常勤監事	監事	監事	監事	員外監事
永塚誠司	戸松義盛	工藤巖	佐藤静子	小川繁	渡邊博	工藤寿博	桂田和弘	池端勝尚	大山澄子	

本誌をもって、年始のご挨拶とさせていただきます。

